
平成 30 年度 交通に関する小川地区意見交換会 議事要旨

日 時：平成 31 年 2 月 8 日（金） 14：00～15：30

場 所：小川交流センターみのり

事務局：萩市、田万川総合事務所、日本工営㈱

ご参加：住民の皆様 22 名



1. 開会

事務局：開会の挨拶（省略）

2. 挨拶（萩市商工政策部長）

山本部長：（省略）

3. 議事

（1）（資料 1、2）

事務局：資料 1、2 を説明（省略）

意見交換：

参加者：資料 P9 及び P14 の境というバス停は、田万川地域から対象外となっているが、田万川地域側である。また今回の資料は現状分析だが、これだけではわからない。今後の計画について市の考えを聞きたい。

事務局：指摘箇所については誤り。指摘通りに修正する。また今回の資料は、様々な調査を踏まえ、資料の P20 に今時点の将来像（案）を示している。具体的なぐるっとバスの運行については、今後検討したい。現状の移動実態として、須佐・田万川はいろいろある。益田への行き方も、石見交通、JR しか交通手段がない状況である。このような状況で、須佐・田万川が東部地域として一体的に運用できないか検討したい。また現状で、市をまたぐ幹線と、支線として、須佐・田万川を循環する路線バスがあるが、利用率は低い。またバス停が遠い等、利用しにくい面もある。このような状況で、地区間をつなぐ路線は、市や NPO 法人の運営で継続する等、様々な方向で結ぶ

必要がある。また高齢者が外出できる、家からバス停までいける交通体系も必要で、今は、ぐるっとバスのみだが、利用に制限があるので、別の交通手段、例えばコミュニティの支え合い等、いろいろな手法も含めて、家から出られる仕組みを検討したい。まずは高齢者が外出できる交通体系を検討したい。旧町村の枠組みを超えて検討すべきと考える。

また、担い手の確保をどうするか、地域の支え合いの取組も含めて、検討したい。現状、交通事業者だけでは事業経営が成り立たない状況もある。このような状況で、交通事業者と、地域住民と、行政の3者が一体となって、様々な実施主体が融合した交通体系を作っていくたい。

高齢者が外出しやすい仕組みを検討したいので、福祉施策との融合も図る予定である。具体的な困りごとを踏まえて検討したい。このような状況で、今回、タクシー事業者の撤退に合わせて、昨年12月から須佐地区のぐるっとバスの運行形態も変更した。ぐるっとバスの利用区域、対象区域を撤廃し、連絡してもらえれば、運転手の裁量で対応できるようにしている。但し1台で実施しているので、少し待ち時間もある。利用しやすさは向上したが、タクシーほどの利便性までは賄えないことを理解頂きたい。通院と買い物支援として、ぐるっとバスは十分ではないかもしれないが、利便性の向上は図っている。まずは高齢者の足の確保が重要であり、これらを踏まえて計画づくりに反映したい。

参加者：住民主体の支えあいで、幹線のところまで送迎する場合に、市からの補助があるか。

事務局：それはこれから検討する。住民主体の交通主体については進めていきたい。方法として、補助なのか、あるいはバスを貸して住民の人に運転してもらうことある。経費は市が出すなどの方法もある。

参加者：益田で入院した際に、運転免許のない妻が通院する場合、近所の運転できる人に頼んで、連れて来て頂いた事がある。家族で運転する人がいない、そういう本当の交通弱者のために、ぐるっとバスのような形が必要になるが、例えば、むつみかどこの行政区で、車両を貸出し、その地区の人が運転できるような仕組みがあると聞いた。小川地区でもできないか。

事務局：福祉政策の一環で、高齢者の生活支援として、総合事務所にはハイエースを配置しており、また、萩地域の周辺部の地域でも同様の車両を用意している。

参加者：車両を使う場合、運転手として総合事務所に登録する必要がある。須佐の総合事務所が所有する福祉の車は、誰でも乗れるため、破損率も高いといううわさ話も聞いたことがある。運転手も、町内でそれぞれの運転できる人を登録する必要がある。

事務局：例えば、須佐は弥富地区で、でっぴんの会等、高齢者を支える実施主体があり、いろいろな支援を実施している。運転できる人を登録してサロン活動等への送迎も実施している。そういう実施主体の中で、運転手を用意して、運行している事例もある。

参加者：独居の老人が、お願いしたら、総合事務所の車を運転して、走ってもらえるような形を考える必要がある。

事務局：他市でも、自治会等で、運輸局に登録した上で、自家用有償運送で対応しているところもある。

参加者：昨年、救急車で益田の病院に行った事がある。地元でそういった車があれば、と思った。須佐でデマンドを実施しているが、どこで予約するのか。

事務局：興和産業で行っている。田万川では、直営での運営を検討予定である。また運転手は廃業される島田タクシーの方にお問い合わせする予定。連絡先も含めて検討中。

参加者：旧萩市内では、まーるバスの運行範囲の拡大の意見がある。現状どのようになっているか。

事務局：拡大の要望は聞いている。現状のバスは、30分間隔で走るようにしている。ただ、今後は30分にとらわれずに、住民の利便性を高めることも検討している。ご意見を

聞きながら、一旦見直して、どこに必要で、どういった形態ができるか再検討を図りたい。

参加者：まあ一あるバスの運行範囲が拡大すると、経費がかかると思われる。これらの経費が周辺地域の負担とならないよう、配慮頂きたい。

また、自家用有償旅客運送を地域で実施できないかとの話題もある。試行的に実施する際、行政にも関与していただきたい。モデル地区を作って、一つの組織を検討して頂きたい。ボランティアは単発的にできるが、長く実施するには、有償も必要と考える、地域での足の確保の良い策を検討して頂きたい。益田まではタクシーだと1万円かかり、バスだと1500円ほどかかる。一方で、益田の方でも生活バスの支援がある。これらのバスをつなぐような連携が取れるとよい。

事務局：過疎化・高齢化が進んでいる地域での高齢者の足の確保は第一で考えたい。また実証運行の件も今後検討する。また福祉バスは、益田市のほか、山口市でも実施している。萩市でも遠方になると運賃負担が大きいことから、これらを福祉施策と連携しながら検討する。またこれらの対策が利用促進につながるように検討したい。

参加者：自家用有償旅客運送とはどのようなものか。

事務局：公共交通は運輸局に届け出た事業者が運行できる。安心・安全の確保のためであり、運輸局が管理している。一方で、過疎地域では、交通事業者の運行が成り立たない。そのような状況で、交通空白地で、自家用車で運行できるのが、自家用有償旅客運送である。同じように、客から料金の徴収が可能。運輸局に登録して、団体はNPO法人でも自治会でも可能である。

参加者：自家用有償旅客運送が自治会で出来るとよい。

事務局：実証の形で、できるところから実施を検討する。

参加者：現状の交通体系を見直してから、検討する必要があることは理解できる。一方で、公共交通が家まで行かないと、外出できない人もいる。最寄りの停留所まで連れていく必要がある。自家用有償旅客運送を実施する場合、一度市の方と話し合ってみよう。

事務局：もちろん、地域でお話させて頂けることがうれしい。江崎の地区社協で公共交通に関する住民講座を実施されたが、120名参加された。小川での移動手段をどうするか、話す機会があるとよい。

参加者：小川は本当に切実である。小川ささえ隊としても話し合いを実施し、良い方向にできるとよい。

事務局：またゆっくり話がしたい。

参加者：なるべく早い機会でお願いしたい。

事務局：日程を相談の上、対応する。小川ささえ隊での取り組みは、福祉とも連携して、検討する。

参加者：田万川地域では、週2回しか診療所にお医者さんが来ない。その点は十分考慮した上で、移動手段を検討していただきたい。益田の病院に自家用車で通院しているが、5年後10年後は厳しい。時代に合わせた対応が必要と考えている、その点もお願いしたい。また田万川、須佐は、益田市の病院を利用している。その点を考える必要がある。県境を越えるので難しいところもあるが、一緒にできることがあれば実施して頂きたい。

事務局：アンケート調査では、将来的に8割の人が公共交通を利用する意向があるという意見であった。また益田が生活圏という実態から、これらの地域の実情に合わせた公共交通の検討が必要である。そういった意味では、利便性の高いのは石見交通である。そういう幹線はしっかり確保したい。高齢者にとっては家から出るところから大変であるため、あらゆる交通手段を検討して、できるところから、実証を検討したい。計画に示す4つの方向性を踏まえ、検討したいと考えている。

4. 閉会

事務局：様々なご意見ありがとうございました。内容については十分検討して素案に反映していきたい。

以上